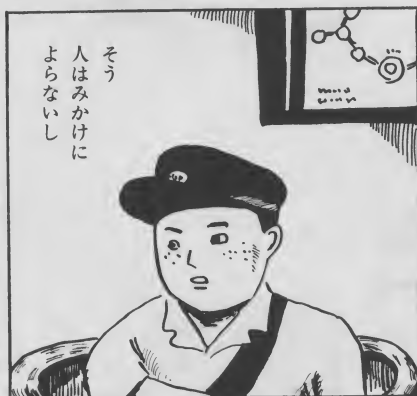
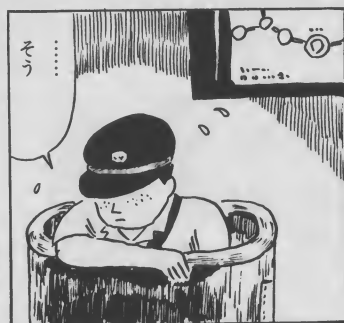
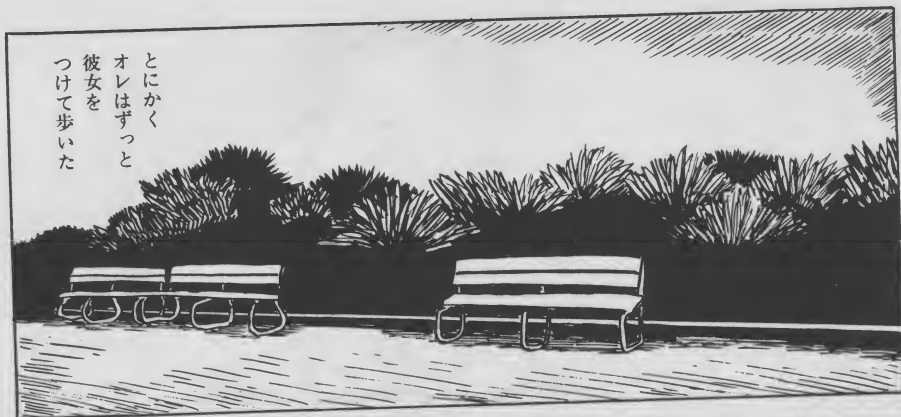
ローカル線の午後

菅野 修

昭和28年、岩手県に生まれる。デビュー作「星の夜の物語」('73・6月号)。主著「冬哭」「ローカル線の午後」「娼婦」。

約十年前、ガロにデビューしました。それから、十年間いろいろな事がありました。とにかくこの世にガロがあって、本当に良かったと思います。私の十年をささえてくれたのは誰？

ありえない
ことはない
フウ

あっ!!
お前タバコ
吸うのか?

ああ吸うさ
きのうはオレ
ひとりで
喫茶店にも
行ったんだ

でも信じられ
ないよ
あんなマジメな人が
学校さぼって
町を歩くなんて

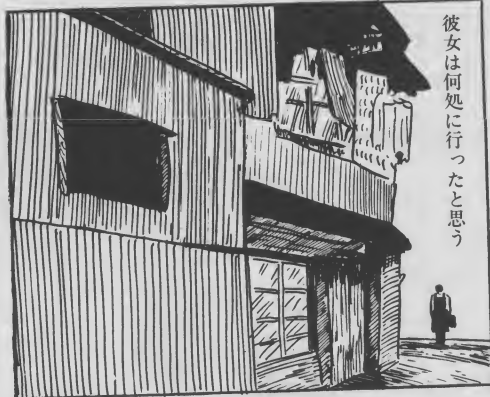
……
そう

そう
人はみかけに
よらないし

この頃の
高校生は
スゴイ
からな

とにかく
オレはずっと
彼女を
つけて歩いた

彼女は何処に行ったと思う

お前
久美ちゃんを
つけてたん
だろ

ああ
オレは彼女を
栄町からずっと
つけていたんだ

そうとも知らず
彼女はひとりで歩いた

ときどき
立ちどまっては
何かを考えていた

オレはそれが
何であるか
いろいろ考えてみた
どうして彼女が
あてもなく
さまよい歩くのかと

しかし
その答えは
彼女にも
分らないの
だろうよ
きっと

ある日
ふと学校に
行くのがいやに
なって
近くの波止場に
海を見に行く
そのことが

すごく
大切なことの
ように思える
ときがある
オレたちだって
そんな時あるよナ

うん
その通り
オレも
さぼりたい

オレなら
さぼってよ
花よりダンゴ
うん

あのなぁ
お前

お前に
本当に久美ちゃんの
気持分るかよ
久美ちゃんは
淋しいんだ

あのまじめな人が
学校を
さぼるんだ

3
オレたちだって
こんな
ローカルに
毎日いたら
いやんなるよナ

ああ

なぁ
お前
あ

あっ!!

ああ
久美ちゃん……

ジジジジジジ
ミィーン
ミィーーン
ミー
ジジジジ

前略
きのう夏物の服と
下着とどきました

ボクは毎日
元気に駅で働いて
おります
とっちゃんも
かぁも変りない
ことと思います

ハナタレ
おとうとの
タカシも
元気ですか
ボクは駅で
改札の仕事を
しています
だいぶ馴れて
きました

ふう

ボクは
たいてい
長野から来た
T君といっしょです

駅は朝と夕方が
一番いそがしいのです
それでも小さい町なので
みんな顔みしりです

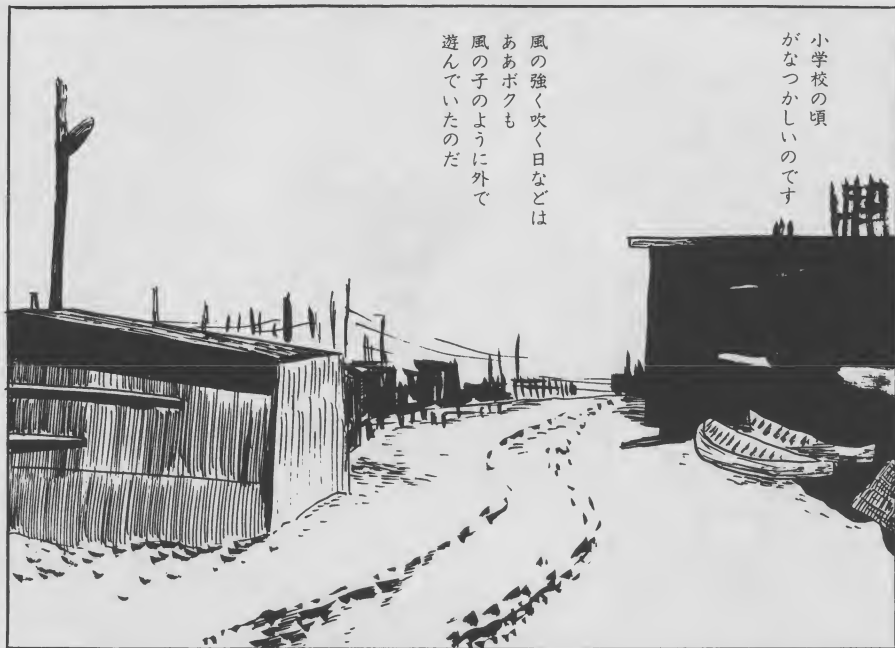
ところで
その丁君ですが
うん

丁君は
ちかごろ
高校生の女の子に
恋をして
おるのです

それから
ボクの
いまいる所は
東京は
東京でも
ローカル線なので
あまり岩手の方と
かわりません
ちょっと歩くと畑があったり
雑木林があったりもします

この前は
線路の近くで
子供たちが
電車ごっこで
遊んでいました
遊ぶのは
何処の子供たちも
かわらないと思いました

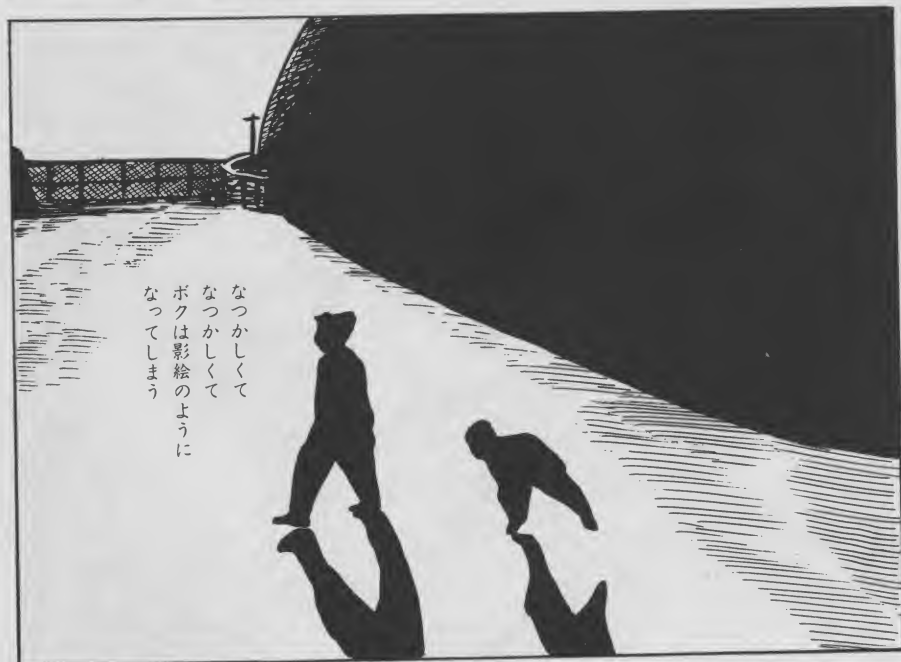
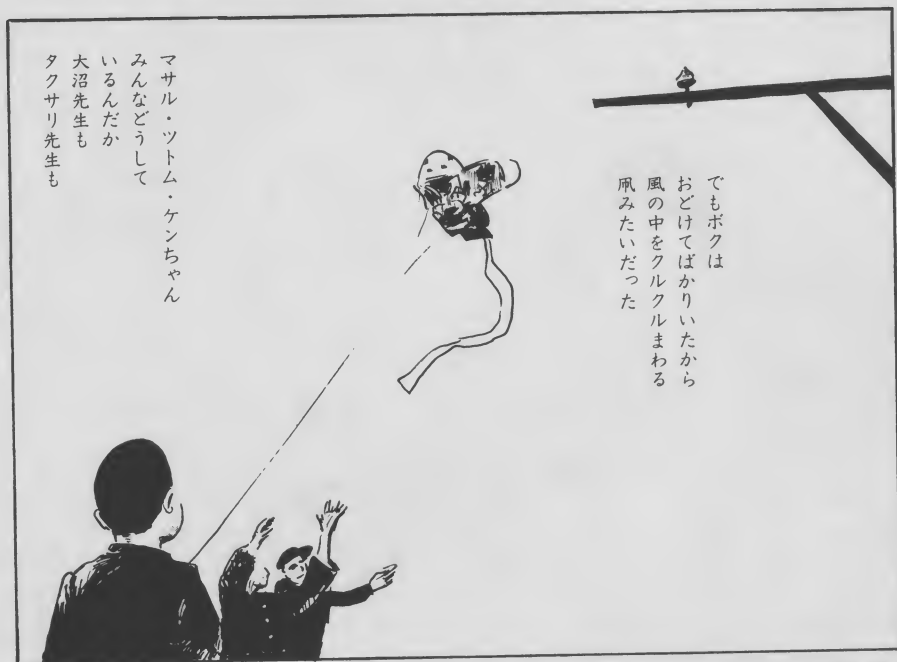
そんなわけで
改札の仕事が
少しヒマになると
ボクは小さい頃を
想い出すことも
あるんです

小学校の頃
がなつかしいのです
風の強く吹く日などは
ああボクも
風の子のように外で
遊んでいたのだ

誰れもいない
野原や
古い板塀のかげに
おびえたりもした
それから
ボクは空をとぶ
鳥が好きだった

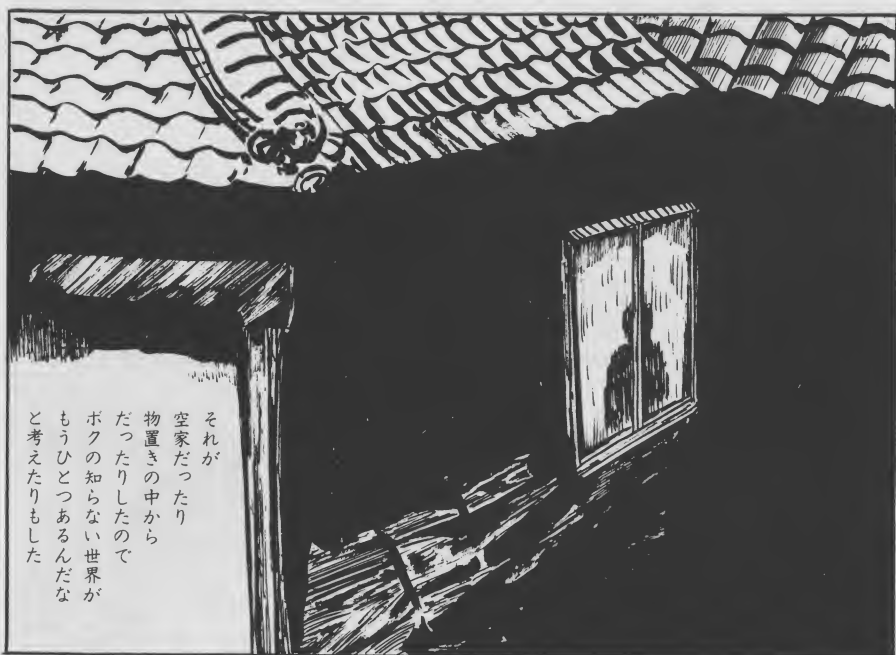
ボクは
あの頃のことを
思うと
胸がつんとして
まいります

わけもなく
女の子を
おいかけたり
ユッコちゃんが
好きだったり
そしてあるときは
風の又三郎だったり
したんです

でもボクは
おどけてばかりいたから
風の中をクルクルまわる
凧みたいだった
マサル・ツトム・ケンちゃん
みんなどうして
いるんだか
大沼先生も
タクサリ先生も

なつかしくて
なつかしくて
ボクは影絵のように
なってしまう

弟が生まれるまえは
シロが一番好きだった
シロは白い秋田犬で
盛岡の知り合いの家から
とっちゃんがもらってきた
草原や土手を
シロと走っていると
ボクは頭が
くらくらしてきて
何がなんだか
わからなくなって

ただ夢中で
犬みたいに
走りまわっていた
ああ
あれはなんだったのか

それと
どういうわけか
夏のセミの声が好きだ
ジィンジィン
ミーミーと
やかましくなく午後
ひとりで遊んでいると
きっとどこかで
ヒソヒソ話が聞こえて
くるんだ

それが
空家だったり
物置きの中から
だったりしたので
ボクの知らない世界が
もうひとつあるんだな
と考えたりもした

こうして
改札口にいると
さまざまな
過去が気持よく
ボクのこころの中に
ひろがってゆくのです

とりとめのない
時間の流れが
そう
させてしまうので
しょうか

とにかく
今年の夏休みは
帰えるつもりです
ではこの辺で
さようなら
みんな元気で
おさむより
五月三十日
のりば

なあ
……
……
うん
なんだよ?

やれ
やれ
きょうは
終った終った
フーッ

やあ
おつかれ
さん
はっ
ごくろう
さんです

どうも
ごくろうさんです
アーァ
おさきぃ

さあ
交代の時間だ
ヤレヤレ

さっきのこと
だまってろよ
へへ
わかってるよ
お前久美ちゃんを
好きなんだろ

あの
な…
……
うん

ああ
この頃オレ
せつないんだ

それにオレ
長男だろ
田舎に帰って
いずれ百姓
やらなきゃ
久美ちゃん
じゃ
農家は
ムリだから

お前
結婚する
つもりかよ

いや…
……
久美ちゃんは
久美ちゃんだ

おっ!!

だから
オレ
せつないんだよ
ふう

な

うん

完